

2016年10月28日(金)～30日(日)
参加者 嶋原(L)、以倉、岡本(記)

28日午後9時前、大和高田を出発。恵那峡SAで零時を過ぎるのを待ち、中津川ICを下り、国道19号線に入る。国道沿いの道の駅「賤母」で仮眠、翌朝、6時前に目を覚ます。空は曇っているものの、何となく晴れの予感、6時45分頃道の駅を出発。

国道256号に入り、大平峠を目指す。雲が徐々に切れ晴れ間が覗く。雨の後の澄んだ空気の中、朝日に映し出され色づいた峰々が、朝霧の中から浮かび上がってくる。後で思い出すと、今回の山行の中で一番美しかった景色だったが、カーブの連続で写真を撮れなかったことが悔やまれる。気分良く走っている間に何となく方向がおかしくなっている感じがする。どうやら旧道に入る所を勘違いしたようで、引き返す。だいぶ時間をロスしたようだ。途中、旧大平峠手前の斎藤茂吉の句碑がある場所で写真を撮るも、陽の輝きと峰々の色づき具合が、先ほどのような美しさはない。



(斎藤茂吉碑)

摺古木山登山口に続く林道に入る。途中からかなりの悪路となり、ぼうっとしていると舌を噛みそうになる。急な斜面を削ったような林道だが、中々見応えのある溪流と峰まで続く紅葉が悪路を忘れさせてくれる。が、景色を見ている分には良いが、中々目的地に着かない。漸く休憩小屋が見えてきた時には、時間は午前9時に迫っていた。コースタイム8時間の山に登るにはほぼ限界の時間だ。急いで出発する。



(摺古木休憩舎)

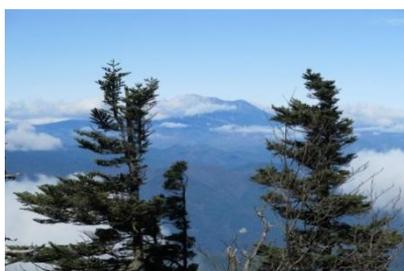
天気は快晴、コース案内には藪こきの連続と書いてあったが、何のことはない、普通の登山道が続く。藪は続くものの、夜露もほとんど無く、ゴアテックスなしで歩ける。展望の少ない笹の中の樹林帯を登り続ける。50分程歩くと、展望台経由と直登コースの分岐にでる。時間に余裕もないので、直登コースで摺古木山を目指す。暫くは急な登りが続くが、その後は緩やかな登りだ。眺望も少し開け、そのうちに摺古木山山頂に着く。山頂北側は少し開け、そこから中央アルプスの山々や御岳などがよく見える。山頂で少し休み、安平路山へ出発する。



(摺古木山登山道から恵那山)



(摺古木山山頂)



(御岳)



(木曾駒ヶ岳方面)



(空木岳、南駒ヶ岳)

摺古木山からは、藪が下草になっているシラビソの樹林帯の中を進む。50分程、景色の殆ど無い、アップダウンの繰り返していると白ビソ山に着く。山頂は藪とシラビソで展望は全くない。更に樹林帯を進み、少し下ったところに安平路避難小屋



(白ビソ山山頂)



(安平路山・安平路避難小屋)

がある。そこから安平路山が綺麗に見える。小屋を過ぎ、暫く行くと徐々に藪が深くなり、急な登りになる。30分弱ブッシュを登り切ると、突然山頂が現れる。が、樹林帯の中で、展望は全くなく、藪を刈って無理に山頂らしくしている感じで、この山が何故200名山の一つかよく分からない感じだ。

時間も12時半を過ぎており、ここで昼食をとる。

1時過ぎに山頂を出発。午前中と違い空はどんよりし、偶に見える遠望もガスで尾根筋は殆ど見えない。悪路の林道もあるので、明るい間に下山したい。摺古木山で少し休み、後はひたすら歩く。登山口に到着した時は午後4時もだいぶ過ぎていた。明るい間に林道を抜け、飯田の町に入った時には日はすっかり暮れていた。夕食の買い出しをし、宿営地を探し、食事にあつく。後はゆっくり飲むだけだ。



(安平路山山頂)

今日(30日)の茶臼山は標高差300mも無いハイキングコースだ。朝はゆっくり出る。それでも8時過ぎには茶臼山の駐車場に着く。第四駐車場まであり、交通整理のガードマンが一杯いる。どこかの遊園地の駐車場にでもいるような気分だ。駐車場から5分程登ると登山口があり、そこから30分弱で山頂。山と言うより散歩のようだ。天気良ければ南アルプスも見えそうだが、位置的には今ひとつの感じで、わざわざ来るような所で無い印象だ。今回は、紅葉も天気も余り良くなく。頂上で40分程休んで、そのまま大阪まで戻る。



(自由広場)



(茶臼山)



(茶臼山山頂)

参考タイム

11/29 9:00 摺古木山登山口→9:49 分岐点→10:16 摺古木山山頂 (10:33 発) →11:24 白ビソ山→11:52 避難小屋 (11:59 発) →12:35 安平路山山頂 (13:07 発) →14:14 白ビソ山→15:06 摺古木山山頂 (15:15 発) →16:17 登山口着

11/30 8:42 駐車場→8:47 西登山口→8:58 自由広場→9:13 茶臼山山頂 (9:54 発) →10:24 駐車場